

2021年12月の日銀統計、製造業産業部門別投入・産出物価指数

- 金曜日 - 04 2月 2022

今年の初めにご紹介した日銀の製造業産業部門投入・産出物価指数 2011年基準の表が1月14日に更新され、2021年12月分の数値が入っていましたのでご紹介します。12月は原油の指数値が下がったため、石油系溶剤を中心に関連材料の数値が下がりました。投入側、産出側それぞれの11月から12月にかけての指数変化を表にまとめました。投入側と産出側はおおむね一致していますが、中には可塑剤や熱可塑性樹脂のように相反するような動きを見せているものもあります。これは前回も述べたように、原油からの加エプロセスのルートが長いほどタイムラグが生じることなどが原因ではないかと推定しています。

日銀企業物価 投入側 2021年12月の指数変化

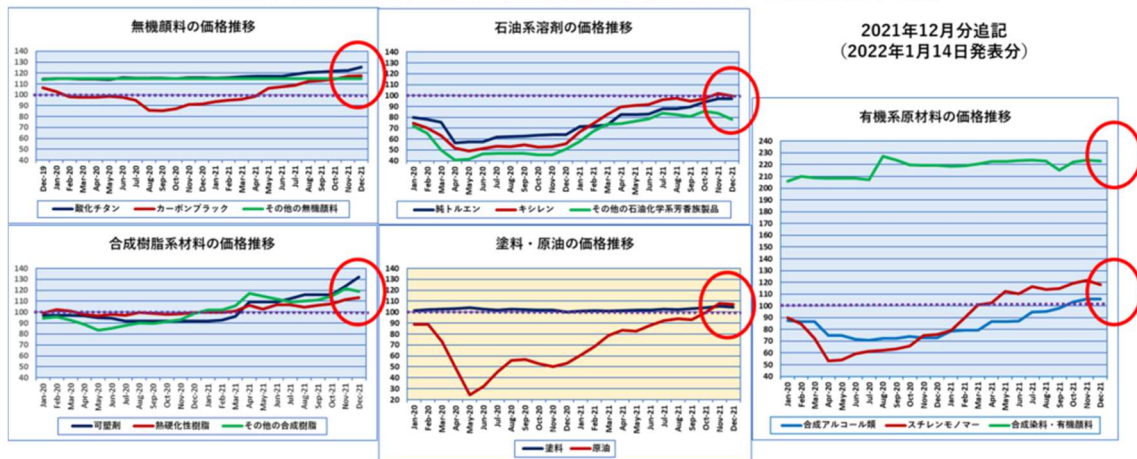
材料名	投入側	産出側
酸化チタン	3.2	3.2
カーボンブラック	0.2	0.3
その他の無機顔料	0.0	0.0
純トルエン	0.1	-0.3
キシレン	-2.1	-2.1
その他の石油化学系芳香族製品	-5.9	-4.1
合成アルコール類	0.0	0.0
スチレンモノマー	-3.6	-4
合成染料・有機顔料	-0.6	2.1
可塑剤	-1.5	8.5
熱硬化性樹脂	1.8	-0.3
その他の合成樹脂	-2.9	-2.8
塗料	-0.9	-0.8
原油	-1.0	-

[https://www.stat-search.boj.or.jp/ssi/cgi-bin/famecgi2?cgi=\\$nme_a000&lstSelection=PR03](https://www.stat-search.boj.or.jp/ssi/cgi-bin/famecgi2?cgi=$nme_a000&lstSelection=PR03)

とりあえず、塗料原材料に相当すると思われる材料の2年分の推移をグラフにしてみました。赤丸で囲んだ部分が、今回報告があった部分です。下の段中央の塗料・原油のグラフは、最も価格変動の激しいものとほぼ変動していないものの両極端が1枚の中にありますので、それぞれの材料が、どちら

のパターンになるのか眺めていただいてもよいのではないかと思います。前回書いたように意外にカーボンブラックが原油価格に連動していて製造法を考えればなるほどと思いました。

日銀統計、製造業産業部門別投入・産出物価指数 2011年基準 2021-2022年の推移



こうした日銀の物価統計数値がどこまで実際の塗料原料の価格と関連しているのかは、私の立場では知る由もありませんが、しばらくはこの日銀の物価統計数値を追いかけてみるつもりです。

本件についてご意見のある方はメールにてお知らせいただければ幸いです。